



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

編集・発行：情報委員会

2017～18年度 テーマ

語り合おう！そして楽しく豊かなクラブライフを！

### 第 275 回例会

日 時：平成 30 年 9 月 13 日 (木) 12:30～15:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：56 名 出席率 91.8%

(会員総数 63 名 休会 2 名 欠席 5 名)

#### 会食とハッピーコイン披露

池田委員長の進行で会食に入り、田中交流担当からハッピーコイン 16 件の披露があった。

(4～5 ページに掲載)

#### 1. 開 会

池田例会委員長

第 275 回例会を開催します。(資料確認)

#### 2. 会長挨拶

馬 場 会 長



ようやく涼しくなってきました。今年の酷暑を何とか乗り切ったことを、皆様と共に祝いたい気持ちです。

先ず報告ですが、石田雅巳会員が 6 月末で退会されました。詳細は岡本委員長から報告して頂きます。会員数は 63 名、休会 2 名となりました。

先月の例会で理事会に一任して頂いた「西日本豪雨災害の義援金」は合計 15 万円として読売新聞社に寄託しました。詳細は寺田幹事から報告があります。

なお、「東日本大震災義援金」は 40 万円、「熊本震災義援金」は 10 万円でした。今月に入り 4 日には台風 21 号による関西地区の災害、6 日には北海道胆振東部地震と災害が相次いでいます。私達は自然災害の少ない八王子市に住んでいることを感謝しなければなりません。8 月 23 日号の「タウンニュース」誌に会長インタビューが載りましたが、私としては当ク

ラブの宣伝に大いに努めた積りであります。何かの折にご活用頂ければ幸いです。

以上で例会挨拶は終わりとし、以下に重要な案件を提案・審議して頂き、皆様のご理解を得たいと存じます。資料「会費改定について」をご覧ください(説明内容省略)。本件は会員各位の充分なご理解を得た上で推進すべきテーマであると認識しています。本日は一定のご理解を得ましたので次の段階として、10 月例会ではより具体化してご説明申し上げる予定であります。

#### 3. パースデーカード贈呈

馬場会長より池田会員手作りのパースデーカードが 9 月生まれの会員に贈られました。



写真は左から岡田 尚、小林貞男、野口浩平、吉田信夫会員と馬場会長も 9 月生まれです。

(岡部 洽会員は欠席) (敬称略)

#### 4. 卓 話

「落伍者を作らない

八王子の学校教育のために」 深谷 正徳

学校教育におけるいわゆる落ちこぼれの問題はきわめて深刻な問題であるにもかかわらず放置されているのが現状です。

落ちこぼれの原因の一つとし「学習指導要領」で年間に教える内容が決められていることが考えられ

ます。これによって授業の速さについていくことができなくて落ちこぼれる生徒がでてきます。先生がそういう生徒を救いたいと思っても時間的な制約がありますので困難なようです。



勉強ができない生徒に共通しているのは読み・書き・計算の基礎学力が育っていないことです。文章をスラスラと読めなければ教科書に興味を持てるはずはありませんし、文章を読む力がなければ、文章を書く力がもつたないのは当然です。算数にしても小学2年以上でも119の次の数が200だと思っている例が少なくありません。これでは授業についていけないはずはありません。

学校ではテストで同じ点数を採った生徒の学力は同じと評価されがちですが、たとえば小学校1年レベルの計算100問を全問正解したとしても、これが1分でできるか、それとも5分かかるかでは学力に雲泥の差があります。機械的な計算ができることよりも考える力を育てることが大切という意見がありますが、計算力に限らずすべての能力は「できる」から「使える」の段階に高めることが重要です。この意識の不足が落ちこぼれを生んでいるのではないのでしょうか。

落伍者をつくらないために、学力の基礎基本としてまずは1から10,000までの数書、小学1年レベルの計算100問を2分で全問正解、文章を1分間で400字の速さで読める、この3点を何らかの形で学校教育に取り入れてほしいものです。これまでに私は障害児にも健常児にもこれを実践して、大きな成果をあげてきました。生徒たちはいわゆる学力だけではなく、学習姿勢が向上し、さらには生活態度にも変化がみられるようになりました。

それぞれは数分を要するだけで、学校の先生方にはさほど負担になるものではありません。むしろこれで成果が上がることで、以後どれほど負担が軽減されることでしょうか。これが八王子市内にある70の小学校にひろまり、それが評判となって「八王子モデル」として全国にひろまっていくとしたら！！夢がふくらみます。

夢の実現のためにプロバスの皆さんだけではなく、お知り合いの方々の協力をお願いいたします。

## 5. 幹事報告

寺田幹事

①平成30年7月豪雨災害義援金：募金額49,035円（宮崎会員、多摩プロバス会長と幹事からの義援金含む）、カラオケ同好会から26,226円、ハッピーコイン勘定から74,739円を拠出して、義援金総額15万円読売新聞を通じ寄付。8月23日の読売新聞の東京地区版に寄付の記事が掲載されました。



なお、ハッピーコイン勘定の昨年度からの繰り越額は114,749円。従って前年度のハッピーコイン勘定残金は40,010円となりました。

②タウンニュース8月23日：馬場会長インタビュー記事が掲載されました。

③メールアドレスの共有：了解を得られた会員のメールアドレスを更新。該当会員にメールで送付しました。

④プロバス紹介冊子「ご案内」検討中：掲載できる写真が少ないので困っています。ぜひ皆様のご協力をお願いします。同好会からの写真の提供、八王子の特徴的な行事（いちょう並木が写っているいちょう祭り、八王子祭り、観光場所（八王子城）等、また写真クラブでの撮影会の写真などを提供して下さい。

⑤いちょう祭りへの各委員会からの出席依頼：

「午前」、「午後」、「どちらでも」のコメントをつけて大澤副幹事まで報告して下さい。

⑥久野会員からの配布物：今月2種類（1種は8月配布できなかったもの）が配布されています。

## 6. 各委員会活動報告

(1) 例会委員会

池田委員長

本日の出席者は56名、出席率91.8%

(2) 情報委員会

持田委員長

①プロバスだより274号を配布。今月号は河合会員の編集担当。自主学習会の立ち上げ、故大野聖二名誉会員の追悼寄稿、池田会員の出前講座記事など豊富でした。今月も寄稿をお願いします。

②HPへの8月1ヶ月間のアクセス回数が250回。

HPの充実をするために(A)古いデータ(写真含めて)を更新させる。(B)トップページの見栄えを改善していく。(C)トピックスなど新鮮な記事をタイムリーに掲載させる予定です。

### (3) 会員委員会 岡本委員長

①休会中の石田雅巳会員が腰痛と高齢のため6月末で退会されました。

②新会員の加入促進のため、9/15(土)八王子市民活動協議会主催の「お父さんお帰りなさいパーティーin南大沢」に参加し、PRの予定です。

### (4) 研修委員会 有田委員長

①野外研修:「今、八王子の大学がおもしろい」

11月8日(木)9時~17時 東京工科大学・東京純心大学・創価大学見学・富士美術館鑑賞と美術講演(例会資料参照)

皆さまの多くの参加をお待ちしております。

②自主学習会 杉山会員

八王子「老年研究会」を立ち上げました。参加募集を致します。(例会資料参照)

第1回例会:

10月22日(月)15:30~17:00 学園都市センター第2セミナー室(終了後、懇親会)

### (5) 地域奉仕委員会 一瀬委員長

①第23回生涯学習サロンのカリキュラム(講師、テーマ、日程)決定。

②開講式特別講話は「iPS再生医療について」講師・赤池先生、閉講式特別講話は「脳の活性化について」講師・菅原先生に依頼。

③サロン12講座講師はプロバス会員8名、外部の方4名。テーマは「医療・介護関係」5、「趣味・レク・芸術関係」4、「社会・歴史・経済関係」5となり、バランスはとれました。

④野外サロンは赤坂迎賓館・花王東京工場・東京スカイツリーの見えるレストラン・東京スカイツリーというコースで皆さまの参加を募ります。

### (6) 全日本プロバス協議会全国理事会

全日本プロバス協議会担当 立川富美代

9月25日代々木倶楽部において上記理事会が開催され、11月27日の全国総会の準備について打ち合わせがなされました。

### (7) 宇宙の学校 下山リーダー

9月の「宇宙の学校」は9日(日)本部会場(教育センター)から始まりました。70組92%の出席で、第1回を休んだ方がすべて来場、登録者は全員参加となりました。教育センターでは会場の都合で、この日ホバークラフトと熱気球という、大きなテーマ2つを実施しました。この2つのテーマは、作ったホバークラフトが驚くほど速く走り、また大きな熱気球が子ども全員カウントダウンでスタート、ゆったり上昇する、人気NO.1,2のテーマだけに大いに盛り上がりました。尚、大学生ボランティア不足を補うため、多くのプロバスクラブ会員にご協力を頂きました。

9月13日(土)が都立北高校会場の第2回スクーリングでした。風見鶏効果実験、傘袋ロケット及び熱気球です。傘袋ロケットも人気テーマのひとつです。熱気球は少し時間に余裕があり、子どもたちが思い思いの絵を描く時間があって、十分楽しみ、かつ学んだと思います。参加者は36組92%。この会場の特徴は高校生(生物科学部員)のボランティアですが、今回は活躍が一層目立ったように思います。9月の講師はいつもの通りKU-MAの山下法昭先生でした。



写真 9月9日の本部会場の実験風景:  
「ホバークラフトの走行実験と熱気球を飛ばす!」

### 7. 同好会活動報告

・写真同好会 矢島一雄会員  
終了後、撮影会の打ち合わせを行います。

・お茶の会 池田ときえ会員

11月に台町市民センターで出前講座のお茶会。

その他

- ①佐々木研吾会員：「大野さんを偲ぶ会」9/26(水)  
18：30～エルシィにて。会費 10,000 円
- ②岩島 寛会員：「お帰りなさい！Dr. 肥沼」  
10/8 (祝月) 11～16 時 横山町公園にて。
- ③山形忠顯会員：東京芸術大学音楽部演奏会 10/14  
(日) 14：00～ いちょうホール (小) 2,000 円
- ④矢島一雄会員： 夫婦 85 歳を記念して、  
「170 歳二人展」を開催。 10/3(水)～8(月)  
10：00～16：00 いちょうホール、展示場にて。

## 8. プロバス賛歌斉唱



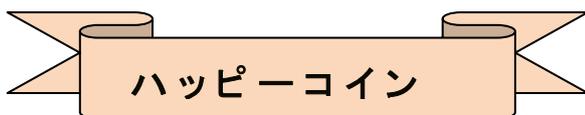
## 9. 閉会

### 飯田副会長



本日は長時間にわたり例会へのご参加お疲れ様でした。今日で新年度になって早3ヶ月。各委員長にはそれぞれの計画にそって事業を前に進めて頂いております。本日の卓話は深谷会員による「落伍者を作らない八王子の学校教育のために」は、大変興味深いお話をありがとうございました。

次回の例会は10月11日(休)12：30からです。当日は野外例会の会費4,000円の集金をいたします。皆さんお元気にてお目にかかりましょう。以上を持ちまして閉会といたします。



- ◆「宇宙の学校」への皆様のご協力ありがとうございました。大感謝致します。 下山邦夫
- ◆台風・地震と被災された方々にお見舞い申し上げます。酷暑を夏バテしないで秋を迎えました。健康に感謝です。 立川富美代

- ◆池田さんの心温まるバースデーカード有難う。これで会の平均年齢に並んだかな。 吉田信夫
- ◆全国各地の天災にあわれた皆様へ、お見舞い申し上げます!! 武田洋一郎
- ◆秋田県ですごした頃を思い出しつつ金足農業高校を応援しました。 橋本鋼二
- ◆8/26、10数人で即席チームを組み、白馬村ウイング21ホールで開催された「夏のおわりコンサート」に出演してきました。 八木啓充
- ◆本日の例会で「自主学习会」の提案をさせていただきます。ご理解、ご賛同を賜れば幸いです。

杉山友一

- ◆今年には自然災害の多い年でした。北海道地震災害で被害にあわれた皆様にご心からお見舞い申し上げます。 有泉裕子

- ◆大阪なごみ選手の四大大会優勝おめでとうございます。暗いニュースの多いなか、日本中を元気にしてくれました。ハッピーな気持ちです。 飯田富美子

- ◆本日、満80歳になりました。体は傘寿ですが、心は不惑未満というのが現実です。 馬場征彦

- ◆8月後半、天皇・皇后様の後を追っかけるように道北の利尻・礼文に行ってきましたが、その後、道南で大地震が発生。美しかった利尻富士の姿も吹っ飛んでしまった思いです。 田中信昭

- ◆一句、吟詠させてください。〈笑み笑まふプロバス例会我も居り〉私たちのプロバスクラブは、いつまでも「会員個人を守る」楽しい組織であってほしいと願っています。私たちは皆、リタイア前に然らぬ組織の中で、苦闘してきたのですから・・・山形忠顯

- ◆9月2,3日富山市八尾地区(越中八尾)「おわら風の盆」を見てきました。19：00～24：00まで舞台踊りと、町流しや輪踊りを見てきました。すごい混雑でした。たっぷり堪能してきました。 寺田昌章

- ◆故郷・北海道の地震による被害に心が痛みます。災いの無きこと、また小さきことを願っています。

佐々木秀勝

- ◆生涯学習サロンのカリキュラムが固まりました。第一歩を踏み出したことにはなりますが、皆様の御支援なお一層よろしくお願い致します。 一瀬 明

- ◆全国総合体育大会(インターハイ)にて陸上競技で男子400米リレー優勝、バスケットボール部東京大会と

関東大会で優勝、インターハイはベスト8に入る。吹奏楽部が東京代表となり全国大会へ、私に関わっている八王子学園の八王子児の活躍です。野球の秋の大会が始まりました。応援宜しくお願いします。

塚本吉紀

## 追悼

### 故 大野聖二さんの事蹟を偲ぶ

#### 佐々木研吾



去る7月19日深夜、大野聖二さんが逝去されました。享年91歳でした。

まさに「巨星墜つ」の感がいたします。かねて体調必ずしも芳しからずとお見受けしておりましたが、持

前の前向きの姿勢で頑張っておられました。ご逝去と伺い直ちにご霊前に参上したいと思いましたが、ご遺族が固辞されましたので、やむなく、同志相集い、改めて大野さんの永年にわたる偉大なご功績を偲ぶ会を催すこととした次第です。

大野さんは、昭和2年1月、千人同心幹部の血筋を引く素封家に生まれました。そのため、誕生日由来の「昭二」の文字を変えて「聖二（しょうじ）」と命名されたと伺いました。周知のとおり、昭和元年は、大正天皇崩御後の数日のみですので、大野さんは、文字どおり昭和の初めから平成の末まで生き抜かれたこととなります。また、大野家は、松尾芭蕉の系譜を継ぐ江戸時代の俳諧の名門、松原庵を継承する家柄でもありました。

大野さんは、早世された父上のあとを継ぎ、29歳の若さで追分町郵便局長に就任されました。かつて大蔵省、日本銀行を中心に貯蓄増強運動が展開されていた頃、優良郵便局の代表として表彰されたこともあったと伺いました。

大野さんのご功績は、改めて申すまでもなく、永年にわたり八王子の各分野の街起こし、地域活性化の運動を幅広く展開されたことであります。

すなわち、大野さんが立ち上げたり、育成、発展に尽力された、主な団体やイベントを、思いつくままに順不同で列挙しますと、以下のようになり、地域の

発展を目指す熱い情熱や、力強い実行力、行動力には、今更ながら敬服のほかありません。当然ながら、こうした活動を通じて、市内外の各方面にわたって幅広い人脈を築いておられ、私も多くの有力な方々をご紹介頂きました。——地域生活文化研究所、八王子青年団体協議会、ふだん着(記)の会、八王子いちょう祭り、東京八王子西ロータリークラブ、東京八王子南ロータリークラブ、東京八王子プロバスクラブ、八王子七福神めぐり、車人形後援会、八王子学会、八王子市レクリエーション協会、八王子市民活動協議会など——

また、大野さんは教養豊かな文化人でした。とくに歴史に造詣が深く、多くの市内外の歴史研究者と交流があり、私もその方々をご紹介頂いたことが度々ありました。箸墓古墳に実地踏査に赴かれたこともあります。また鋭い直観力や抜群の記憶力の持主(独特の記憶術を行使)であるとともに、風水や囲碁、奇術、手相鑑定等を楽しむ一面もありました。

私が大野さんの知己を得たのは、平成13年春、初めてプロバスクラブ生涯学習サロンに参加した時であります。その折、大野さんの方からお声をかけて頂きました。同年秋、クラブ会員として入会してからは、折に触れ何かと面倒を見て頂き、とくに平成17年、クラブ創立10周年に当たり大野さんが2度目の会長を務められるとともに、私が幹事に指名され、大野さんを補佐することとなりました。この時から今日まで、大野さんとの緊密な関係を継続させて頂きました。

いちょう祭りに関しては、「祭りの運営全体を、とくに会計関係中心に見てくれ」とのご意向であったので、折々に忌憚のない意見を率直に申し上げました。ある時は、「専務理事をやってくれ」と言われ、さすがにそれは辞退しましたが、今日の状況からすると、大野さんのあとを継がざるを得ない巡り合わせにあったのか、とも思います。

八王子学会（八王子に関する諸般の事象〈八王子学〉を幅広く研究する会）にも参加させて頂きましたが、ここでは、4人の常務理事のひとりとして大野さんを補佐しました。ただ、この会は事情があり休会のやむなきに至っているのは残念なことです。

このように、大野さんの偉大なご功績は枚挙にいとまありません。しかし、今やその警咳に接することはできません。このうえは、大野さんのご遺志を継ぎ、街起こしの諸事業を継続、発展させていくしかありません。とくに、大野さんが最も情熱を傾けられた、市民手作りの「いちょう祭り」を、ますます充実、発展させていきたいと念じております。最後に、大野さんのご冥福を切にお祈りいたします。

合 掌



皆さん、お達者で

久野久夫

当クラブ7月例会の席上、クラブメンバーの<sup>①</sup>平均年齢が80.3歳になったとの報告があり、会場からは溜め息(?)ともつかぬドヨメキが挙がりました。超高齢社会がいわれる中、活発な活動を続ける当クラブとしては当然のことであろうかと思いつつも、矢張り驚きの一言であり、またメデタイことでもあります。という訳で改めてこのことについて考えてみることにします。



超高齢社会(65歳以上の人口割合が21%超)で、世界のトップをひた走る我が国では<sup>②</sup>平均余命(寿命)と<sup>③</sup>健康寿命との差が男性で約9年、女性で12年余といわれ、その「健康でない期間」をいかに短くするかが、喫緊の大命題になっています。そこでまずは健康の概念についてですが、広く知られているのはWHO(世界保健機関)の定義として「肉体的・精神的・社会的に全てが満たされた状態」があります。しかし、これは理想であっても大いなる願望(こんな人が居たら会いたいものです、は私の僻みですかね)であって、今までも今日でも、また若い人においても難しく、なかんずく高齢者では何らかの疾患や障がいを持つ人達が多くあり、この論からするとその方々は「健康」に当てはまらないことになってしまいます。

また「健康寿命」の算出方法については色々ありますが、国の定義によると「日常生活上の制約の有無」、または「自分が健康であると自覚しているかど

うか」となり、これにより算出した平均寿命との差は前述の通り男性9年、女性12年であり、その期間についてはWHO定義によるものとの差はありません。

いずれにしろ“平均余命-健康寿命=0”に限りなく近づける。つまり健康である状態・自立している状態のまま、その時を迎えられればご同慶の至りです。これに関する言葉としてピンピンコロリがあります。「病気に苦しむことなく元気に長生きし、最期は寝付かずにコロリと逝くこと、または、そのように逝こう」ということで、古来各地にはピンピンコロリ(ピンコロ)信仰があります。余談ですが「寝たきりで長く生きる」ということにネンネンコロリ(ネンコロ)があるようですが……。

とどのつまり健康については、普遍的で絶対的な概念は無く、個々人の状況や年齢によって、その捉え方は異なり、超高齢社会においては疾病や障がいを有していても「自立して自分らしく生きられること」が、お達者(健康)な状態、幸せな状態といえるのではないのでしょうか。当クラブメンバーのおひとりに正にこれにピッタリの方が居られますが、その生き方に学び、平均年齢90歳のクラブを目指したいものです。

介護とは無用の日々よ天高し

(文中の注釈)

- ① 平均年齢：その社会・団体構成員の年齢の平均値
- ② 平均寿命：0歳(あるいは出生時)における平均余命 女性87.26歳 男性81.09歳——2017年
- ③ 健康寿命：自立した生活を送れる期間 女性74.79歳 男性72.14歳

#### 高齢者の健康作りのキーワード

体育	生涯体育 適切な休養
食育	栄養 おいしさ 咀嚼 コミュニケーション 免疫
知育	老いの受容 社会参加 生涯学習
環境	乗り物 住居

追伸 この8月に後期高齢者医療保険証が届きましたが、当クラブメンバーとしてはまだまだ青い?かな～

## 星めぐり

八木啓充

〈物好き〉 今年1月28日朝日新聞を見ていたら「天文イベント当たり年」という記事に目が留まりました。今年は皆既月食が2回あるとか、火星が大



接近するとか。その中で、8月に極大を迎えるペルセウス座流星群は、今年は月明かりがなく星を見るには極めて条件がよく、またとない機会であるという記事を発見しました。

8月12・13日が新月（満月の反対で、月が欠け切った闇夜）になり「満天の星」を観察する絶好の機会なのです。八ヶ岳高原のペンションを予約しようと、星マニア数人に声をかけてみところ、ぜひ参加したいと6人のクルーができました。早速ペンションを数件あたって甲斐大泉の駅からほど近い、小さなB&B (bed & breakfast)のペンションを借り切りました。

〈雷・豪雨〉 当日猛暑のなか、上諏訪で素敵なレストランを見つけました。

そこでランチを食べ、温泉を堪能しているうちに雨がポツポツ降り出してきました。駅へと急ぎ、小海線に乗った時には、今年の夏恒例の、ご存じ雷と篠突く雨です。迎えの車でようよう宿に到着。晩ご飯のレストランの予約をと、電話をかけまくり探しましたが、どこも満席で断られてしまいました。そこで雷と豪雨のなか、宿の車でそこら中のレストラン・食堂に直接回ったのですが、みな混雑していて断られてしまい、最後に頼りは「セブンイレブン」です。棚の売れ残った「おむすび」「サンド」を買い占め、缶ビールを持ち帰り、何とか爆撃のようなカミナリの中で難民生活が始まりました。豪雨の中のパーティーです。

〈奇跡が起きた〉 パーティーもたけなわの中、雨音のしなくなった窓から外を見ると、なんと火星が輝いているではありませんか。とるものもとりあえず慌てて、ライトと星座表を持って近くの広場に飛んでゆきました。雨上がりで雲一つありません。

空には木星、土星それに大接近を迎えた火星が輝いています。

天空に広げられた星座の数々。天頂には十字に光る「はくちょう座」(デネブ)、「こと座」(ベガ)、「おし座」(アルタイル)が夏の大三角形を描いています。南の空には赤い眼(アンタレス)をした「さそり座」や南のひしゃく「南斗六星」も見えます。



北に目を転じると大きな柄杓の「北斗七星」、W字の「カシオペア」などなど、「天の川」も見えます。東からは秋の星座「ペガサス」の四辺形も上がり始めています。流星もたっぷりと観察出来た。6年前のモンゴルの草原以来の星空です。

〈夢だったのか〉 気が付くと体が冷え切っています。宿に帰り、風呂に入り出直すことにしました。

1時間後玄関を出てビックリ。私たちは夢を見ていたのだろうか。一面の濃霧で星空はおろか、林も山も全く見えなくなっていました。

宿のベッドで一日を振り返り、思いがめぐっていました。宮沢賢治も今日と同じ星空を見ていたのだろうかなどと。宮沢賢治の詩「星めぐりの歌」を思い出したのです……。

“あかいめだまのさそり・ひろげた鷲のつばさ  
あおいめだまの小さいぬ・ひかりのへびのとぐろ  
オリオンは高くうたい・つゆとしもとをおとす  
アンドロメダのくもは・さかなのくちのかたち  
大ぐまのあしをきたに・五つのぼしたところ  
小熊のひたいのうへは・そらのめぐりのめあて”  
かくて夢のような奇跡の夜は更けていきました。

## あこがれの寒山寺に旅して

阿部治子

上海・蘇州の旅

“楓橋夜泊、の漢詩や「蘇州夜跼曲」の鐘が鳴ります寒山寺の情景にあこがれ、上海、蘇州へと友と共に旅をしました。



「楓橋夜泊」 帳 継 作

月落鴉啼霜滿天 江楓漁火對愁眠  
姑蘇城外寒山寺 夜半鐘聲到客船

漢詩を訳すと、「月が沈みからすが鳴いて霜がおち暗い秋の空に満ちる。岸辺の楓樹（もみじ）と赤く揺れるいさり火が旅愁のため寝付けぬ。折しも蘇州城外にある寒山寺からは夜半を告げる鐘の音が私の乗る舟の中まで聞こえる」となります。

作者の張継（755～763）が中唐（李白・杜甫の次の時代）に安史の乱を避けて、呉越地に遊んだ時の詩だと伝えられています。

煎茶は中国から伝えられ、日本では高雅な茶味と文化精神を求めて煎茶文化が開かれました。

この「楓橋夜泊」は煎茶の席では秋の茶掛軸として、「寒山」は経巻を披き「拾得」は箒を持つ図も茶会には好まれます。

寒山寺は、中国江蘇省蘇州市楓橋鎮にある禅僧寺院。市区の西端、京杭運河の畔に位置する。南北朝梁の天監年間（502～519）に創建されました。

当初は妙利普妙塔院と呼ばれていたが、唐の貞観年間（627～649）に寒山と拾得という二人の詩僧が住職となった折り、寒山寺と改名されました。

これまで何度も火災に見舞われ、5回～7回とも伝わる。最後に再建されたのは清の光緒年間（1875～1908）と伝えられている。

寒山寺は、寒山、拾得の詩僧で有名であるが、何故か寒山は「巻物」を、拾得は「箒」を持っています。それはお経を読むも掃除するもすべて修業のことである。「寒山」「拾得」は中国唐代の脱俗的人物で、共に在生年代不詳である。天台山国清寺に住み詩禅一如の生活を送り、その挙動は頗る奇矯であったという。寒山は文殊菩薩の化身、拾得は普賢菩薩の化身とも称せられ、よく画題にされます。

寒山寺は中国式建築が絵画の枠中に表わされた絵画のようで、芸術的、神秘的感覚にひたりました。撞く鐘の音は美しく、風と共に寒山寺の空に響き渡り心静かに和ませてくれました。

八十路をすぎて、人生とは何ぞや。それは「夢幻の如く」と言うが、あと後何年生きとるや……と思いつつ、あこがれの寒山寺の鐘の音に余韻を残し、心洗われる旅でした。

## 俳句同好会便り

私の一句～九月の句会から

河合 和郎

この稿を書いている9月下旬は、11月の気温という涼しさを通りこして肌寒さを感じる雨の一日だった。今年の夏は異常な暑さの連続だった。加えて台風が多発、大雨、地震と日本列島は自然災害に襲われ続けた。俳句の作品にも猛暑や災害を詠んだ句が多かった。今月の兼題は「霧」。

百ヶ日友は語らで霧の中

山形 忠顯

逝ってしまった親友を偲んでの一句。百日忌に臨んでの悲しみが伝わる。「語らで霧の中」が切ない。

連れ添ふてダイヤモンドに榮える秋 東山 榮

ダイヤモンド婚は結婚60年目に行う祝賀。おめでたい一句。健康あつての共白髪にあやかりたい。

いつ還る北の領土や霧に消え

矢島 一雄

もう73年が経つ。北方領土は本当に還って来るのだろうか。島民が元氣なうちに是非実現を。

落ち蟬に触れば羽音響かせて

池田ときえ

力強い描写。死んでいるかと思いつつ触れてみる。思いがけない羽ばたきが。でも、もう飛べない。

大文字わしも見たやと大仏様

田中 信昭

奈良の大仏さんが京都の大文字を見てみたいと。ユーモラスな発想がいい。俳句脳は瑞々しい。

イヤリング外してみても暑き秋

飯田富美子

女性ならではの繊細な感覚の一句。今年のいつまでも続く残暑を、イヤリングを外す所作で表現。

コスモスの揺れる畑や風の道

馬場 征彦

コスモスの揺れている光景から風の道を感じ取る作者。何気ない日常の景に句材は溢れている。

幾つかの恋の記憶も霧の中

渋谷 文雄

いくつになってもときめきを感じる心が若々しい。「幾つかの恋」という控え目な措辞がいい。

父祖の地も夢も泡沫秋出水

河合 和郎

地震に、洪水に父祖伝来の地を奪われ、生きる夢さえも無くしてしまった。災害列島の悲劇がまた。

編集後記：今月は記事が少なく、埋め草に自作投稿で埋めました。みなさまの寄稿を宜しくお願ひ致します。

八木啓充